

コレンジャーと
山を歩く

動物の足跡調査

1月22日、森の子コレンジャーと落合、養沢の山に入りました。雪が残る山道

を、白い息を吐きながら登り始めることになりました。雪道でも、元気に歩けばすぐに体が温まり、寒さを吹き飛ばして歩きました。雪の登山道は危険ですが、歩幅を小さくして駆け出したらしなければ安全に歩けることを学び、尾根道では冷たい凜とした風を頬に感じながら山歩きを楽しみました。雪道では雪道の楽しみ方があり、今回は野生動物の足跡を探しました。昼間、私たちが歩いている山道も、人間が寝静まった夜中？にいろいろな動物たちがその道を利用して歩き回っていることが分かります。コレンジャーたちも、いろいろな足跡を見つけて、2本の蹄跡ほづまだからイノシシだとか、足跡の先にあるフンを見てテンのものだと確認して、

動物の痕跡調査を楽しんでいました。また、横根峠にある3本立ちのスギやモミなどの巨木の幹回りを測定して、巨木調査も行いました。昔道やその周辺には祠ほくらや馬頭観音などがあり、昔人の暮らしの身近に山や森があつたことも学びました。養蚕の神様とされる「コヒカゲサマ」では、コレンジャーが小さな雪だるまのお供えをしてきました。

昼食後に五柱神社いむしらじんじゃの大杉を見に行ったのですが、大杉を見る前に巨木の大きさを想像してもらうと、最大でも自分たち5〜6人で手をつないだ程度でした。しかし、実際に大杉を目の前にしてみると、その巨大さにびっくりしました。みんなで手をつないで回つてみると11人で1周するほどの巨木で、巻尺で幹周を回つてみると9メートルありました。あきる野は、巨木が育つ素晴らしい環境が整っている地域で、将来、これらの貴重な巨木を見守り育ててゆくのは、大人になつたコレンジャーの役割だと締めくくつた山歩きでした。

(杉野)